

日本で学んだ指差し確認

グエン テー ユン

NGUYEN THE DUNG

日本は経済発展が進み、商品の品質がとても良い国です。私はベトナムに住んでいるとき、なぜ日本の商品は品質が良いのだろうと、疑問に思っていました。私たちは2年前の3月に日本へ来ました。そしてパモウナという家具を作っている会社にお世話になることになりました。私の配属された工程は家具の抽斗を作成するところです。このパモウナという会社は「品質」というものに大変厳しい会社です。そして働いている社員の皆さんは、基礎を大切にしています。その基礎の一つに「指差し確認」というものがあります。私の上司である係長はこの「指差し確認」を1番最初に教えてくださいました。抽斗のパーツに糊入れをしたら、1つ1つの穴を指差し確認をするのです。私は正直「糊を入れた後すぐ組み上げてしまえば、もっと時間も短縮できるのに、なぜわざわざ不効率なことをするのだろう？」と疑問に思っていました。入社間もないある日ことでした。担当工程の次工程である組付工程で、糊入がされていない抽斗が発見されたのです。私が指差し確認を怠った抽斗でした。それは完全に私の不注意でした。糊入れがされていない抽斗が、市場に

流出することは、絶対にあってはならないことです。私は、係長から厳しい叱責を受けることを覚悟しました。しかし、係長は怒らず優しい声で「今度からはもっと気を付けて、パーツに糊を入れたら必ず指差し確認！」と、言われました。その時私は、深く反省し後悔するとともに、今後は必ず「指差し確認」と心に誓いました。指差し確認のもたらす効果は絶大です。指差し確認を必ず行うようになってからは、糊の入れ忘れによる不良は一度もありません。なぜ日本の製品が、世界でもトップクラスの品質で、性能が良いのか分かりました。その理由の一つに、この指差し確認のように、どんな小さな事も必ずもう一度確認し、絶対に不良品を出さないという気持ちが、素晴らしい製品を作り上げるのだと思います。お金を払えばほとんどの物が手に入る世の中です。しかし日本で仕事で得た小さな経験ひとつひとつは、お金で買うことの出来ない、かけがえのない大切な宝物です。会社の方々から教えていただいた「指差し確認」を、ベトナムに帰って就職してからも続けていきます。そしてベトナムの皆さんにも「指差し確認」を教えてあげようと思います。